2024/1/19 （金） 電波新聞

1 面掲載 「工場など現場のデジタル化を後押し 各社が展示会でアピール」 記事

工場など現場のデジタル化を後押し

各社が展示会でアピール

大阪

工場現場などでの見える化やデジタル化などに対応したＩｏＴ、クラウド関連ソリューションの実装化が進んでいる。これまでＩｏＴを取り付けることができなかった場所への設置を可能にしたものや、収集したデータを分析に活用するシステムなども登場。大阪できょう19日まで開催中の展示会では関連各社が実機を披露し、現場でのデジタル改革を後押しする。

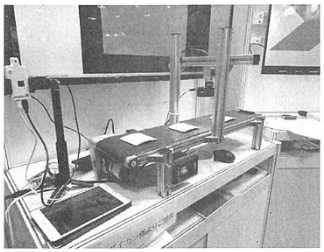
17日から大阪市住之江区「中の専門展「第8回Ｊａｐ［西］」（主催＝ＲＸ Ｊａｐａｎ）。「ＩｏＴソリューション展」「組込み／エッジコンピューティング展」など九つの専門展で構成され、約220社が出展している。現場のデジタル化を推進するソリューションやデータの分析につなげるＡＩ（人工知能）関連システム、5Ｇ関連ソリューションなど多彩な製品が並ぶ。

東亜無線電機（大阪市浪速区）は、目による検品業務をＡＩで代替する、外観検査ＡＩソリューション「メキバイト」を展示している。ＡＩを活用することで、検査対象の傷などの有無を確認するだけでなく、傷の種類、汚れなどを判断し、傷、汚れなどの原因箇所までを分析。生産性の向上や業務改善などにもつなげる。ブースには工場ラインを想定した展示スペースを用意。ライン上の検査物のＮＧ要因をディスプレーで表示し、分かりやすく解説している。

さらに、木幡計器製作所（大阪市大正区）が手掛ける、アナログ式計器のＩｏＴ化を実現する「Ｓａｌｔａ」の防爆仕様の新製品を初めて披露している。既設のアナログ計器に取り付けは、指針読み取りを可能にするソリューションだ。ここのほど、ニーズの高かった防爆仕様の開発が終わった。石油コンビナートやガスコンビナートなど使用環境の厳しいアナログ計器にも対応、2種類の通信網に対応可能だ。2月に販売を開始する。

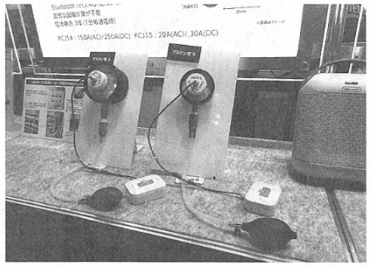
明光電子（横浜市港北区）は、ＩｏＴ角度センサーユニット（ＳｉＲＣ製）を活用した既設のアナログメーターの見える化後付けソリューションを訴求している。ラインアップも拡充し、三つの計器の大きさに対応。高所など危険エリアにも対応する。また、電力センサーと九州テン（福岡市博多区）のＩｏＴゲートウェイ「ＱＲＩｏＴⅡ」などを組み合わせた電力の見える化お試しパックなども紹介。実装しやすいよう2週間無料の貸し出しサービスをアピールしている。

京セラは、5Ｇに対応したＩｏＴデバイス「ＫＣ４－Ｃ－１００Ａ」とセーフィーのＨＤＭＩ出力対応ルーターを活用した映像のリアルタイム伝送ソリューションを提案。カメラ付きのドローンを用意し、コントローラーのディスプレーから遠隔確認できるデモを実施している。スマートフォンのＤＩＧＮＯを活用した、バーコードも読める高性能ハンディーターミナルのソリューションも展示。1台で幅広いニーズに対応した機種も出品している。



外観検査のＡＩソリューションで傷や汚れなどを判断（東亜無線電機）

防爆仕様の機種も披露（木幡計器製作所製）



明光電子は、アナログ計器の見える化ソリューションのラインアップを紹介している